

仕事に對する親切

社長 マスター 星

一

である。而して彼は自分の地位が上れば上るに従つて夫れ相應に遺憾なく自分の職務を盡すのであつた。

なる。故によくの不都合のない限り、初めに志した仕事をいつまでも見捨てないことを希望する。

抑も人間は生きてゐる以上、病弱者や老衰者でない限り、皆力の有らん限りを盡して労働せなければならぬ。吾々は労働をするからこそ休養も睡眠も愉快に出来るのである。而して其の労働といふのは必ずしも筋肉労働とは限らない。知識有る者は知識を以て、才能ある者は才能を以て自分の爲すべき仕事若くは自分の爲し得る仕事を爲ることである。古歌に

そこでどうせ働くなら成る可く自分の身に適する好きな仕事を選ぶことが肝要である。天遣材を生ぜずといふから、言は言、跋は跋なりに必ず何か適する仕事は有るであらう。但し自分の好きな仕事といふものが、見えがよくて氣樂でそして収入も多いといふ意味のものであつたら、それは他人の仕事を表面からばかり観て羨ましがらる意根性に基いたもの、そんな仕事は減多に問屋でも卸さない。假りに有つたにしてもそんな仕事は決して吾々の生活を充實せしめるものではない。仕事そのものは容易に出来ない難物であつても、其の仕事に意義を見出して働くところに味が有り又榮譽も横はるのである。例へば給仕や小僧の如きにして自分の仕事は事務の進捗を助け、社會の繁榮を招くといふ自覺が有つて否無くても宜い、唯だ自分は自分の仕事を最善を以て果すやうにすれば、假令其の地位は卑くても其の人格は見上げられる。秀吉の太閤たるべき素質は其の草履取り時代に於て、草履を温めたといふ其の意思の而して職務に忠實なることによつて既に現はれてゐたの

人間一人の行ふ仕事といふのは、それは微細なものである。けれども其の一人の行つたことが、時には一國の存亡に關することもあり、少くも其の携はつてゐる事務事業の伸縮、興廢には影響を及ぼすのである。怠るといふことも他の緊張を破り、其の害は傳染病程の危険さをもつてゐる。で皆が撻まらず働くといふことに意義を見出して、上は社長若くは局長より下は給仕、小僧、小使に至るまで共同の目的に向つて奮闘事に當れば、自然と仕事の趣味も湧いて来る。仕事に興味を感じると、最早それは労働ではなくて道樂である。音楽家が聲を擗つて歌ひ、文士が寢食を忘れて筆を執り、事業家が飲まず食はずに奔走する、それは他人には辛く思はれやうが、本人は却て其の辛い所に興味を感じてゐる。斯くの如き労働即遊戯といふ境地まで行けば労働ほど神聖な楽しいものはないと感ずる。而して其境地は一人一業主義を奉ずることによつて到り得られる。就職を求めるときも一年や二年で以て掛けるに轉々する者は浮氣者が遂に女から愛想盡かされるやうに仕事から見放されてハテは食ふにも困るやうに

尙ほ最後に述べて置くが、苟くも課長とか地方官とか主任とか或る仕事の要衝に立つてゐる者は、一層の責任感をもつて仕事に勤むといふ事の外に、上下内外及び時勢の變遷社會の要求に對して深く注意する所が無ければならぬ。古人は斯かる地位に在る者に對して「君子終日乾乾、夕に惕若懼」慎しむこと）たれば、厲けれども咎なし」と言ふてゐる。即ち斯かる地位は仕事を背負すべき責任を帯びて、上下内外の折衝地帯に立つてゐるのである。而かも其の地帯には常に多くの誘惑や陷阱なども横はつてゐる。まことに其の任や重く其の地位や厲い。故に先づ粗暴放漫な言語態度を矯め、上下内外に對して誠を立て通すといふことが自分の地位を保つ所以であつて、而して仕事の上にはよく時勢の變遷や人心の歸嚮等を洞察して皆とも相談の上適應の處置を執り、上位に居て驕らない代りには重役や大臣などの前に出て憂ひもしない。唯だ終日乾乾として仕事を勤むのである。然らば則ち危険なる地位に在りとも雖も、別に咎といふものはな

此秋は雨か風かは知らねども

今日の務めに田草取るなり

とあるが、實に意味深長な愉快な歌と思ふ。

元來、人間は働く爲めに生きてゐるのであるから、何の仕事もしないで、唯だ食つて、寝て、死んで行くといふのでは本人も生き甲斐なく感じるであらうし、又社會にも迷惑である。實に人間は儲からうが儲かるまいが、そんなことには超越して今日の務めをするといふことに牛の意義があり、又皆が協同的責任の精神を以て働くところに文化の發達もあるのである。

貴承正の簡單な療法

田氏は同様の治験例を千葉醫學專門學を片づらしからやつて見たのであるが